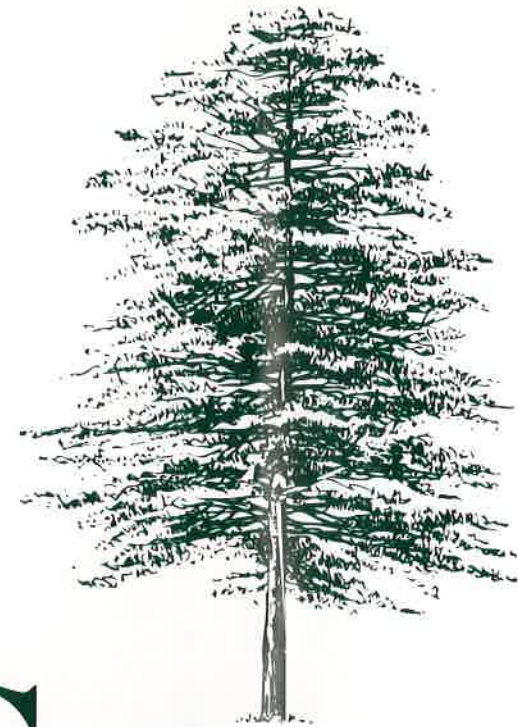




沼津工業高等専門学校同窓会
〒410 沼津市大岡3600 TEL0559-21-2700



Copse

1997 Vol.14

ALUMNI BULLETIN,
NUMAZU COLLEGE
OF TECHNOLOGY

CONTENTS

Copse 1997 Vol.14

- 今 沼津高専は〈名誉会長〉山下富雄…… 2
- 会誌発行に寄せて〈会長〉木ノ内倫弘…… 3
- 施設の現状と課題〈沼津高専事務部長〉長谷部昌弘…… 4
- 学生課の一年〈沼津高専学生課長〉宮腰秀弘…… 6
- 専攻科について〈沼津高専専攻科主任・物質工学科教授〉宇井倬二…… 7

故・市川良輔先生を偲んで

- 弔詞〈会長〉木ノ内倫弘……10
- 市川良輔先生追悼句集〈合縁機縁〉追悼の集いより……12

西湘支部報告

- 沼津高専・西湘地区同窓会〈M1〉増田徳一……30

各種イベント報告

- ROBOCON'96〈E9〉長澤正氏……34
- '96サッカー一部OB会と第29回全国高専サッカー選手権大会〈M6〉坂井徳尚……36
- 平成8年度東海地区高専大会成績表……38
- 編集後記……40

今 沼津高専は

学校長（同窓会名誉会長）山下 富雄



我が沼津工業高等専門学校も、創立以来35周年を迎える年となりました。人間で言えば壮年期となり、卒業生も4,700人を超えております。

本校の10年史、20年史、30年史を見ると、それぞれの時に関係の人たちの大変なご努力があつて今日を迎えることができたわけです。

特に、設立当初のご苦労は並み大抵のものではなく、古い金岡中学校を仮校舎とし、また臨海寮を仮寮としてスタートし、グラウンドがないために体育はマラソンと水泳だけだったと聞いています。また、新校舎への道が永らくドロコンで長靴が必要だったとも仄聞しています。

それが今、大岡の小林が森に偉容を示すに至っております。

特に近年、工藤前校長を中心に本校の大幅な充実が図られ、平成8年度には、高専本科を終了後も、より高度な教育研究指導をうけることができる専攻科が設置され、今年度は高専を卒業して一旦企業等に勤務した社会人10人を含む23人が入学しました。専攻科の設置に伴い教官陣容も充実し、また近く専攻科のための校舎の建築も予定されています。

また、情報化社会に対応するため、校内LANが整備され、全国の高専に先駆けて文部省から本校に「高専LAN調査検討プロジェクト（文部省大学改革推進等経費）」が依頼され、これを取りまとめ、全国の高専に示すことが出来ました。

その高専制度も、平成3年度に、高等教育機関改革・大学改革の一環として制度の改革が行われ、これまでの横並び的な整備方針から、個々の高専の努力の度合いによって整備充実を図ろうという方向へと変わってきています。

私どもも本校の充実に日夜最善を尽くしておりますが、同窓会の皆様におかれましてもご支援下さいますようよろしくお願い申し上げます。

昨年11月末、同窓会の理事会に始めて出席させていただきました。その席で「学校で何かあったら同窓会にご相談下さい。」とお言葉をいただき、大変力強く思いました。

同窓会あつての学校、学校あつての同窓会と、同窓会と学校は一心同体と考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、最近極く一部の学生には、世間一般の風潮を受けて、自分たちの将来への目的意識を無くしている者がいます。そのために、喫煙、飲酒、不正行為等を行う者が少し増えてきている状況にあります。

現職の教職員が一丸となつてこの予防・防止に努めることは当然ではありますが、同窓会の皆様方も本校の一員でありますから、そういう観点からも後輩達の動静に十分ご関心を持って頂きご指導いただけますと、私達といたしましても大変ありがたく思われます。



会誌発行に寄せて

同窓会会長 木ノ内 倫弘



会員の皆様こんにちは。

私達の沼津高専同窓会誌も早や14号の発行を迎えることになりました。歴代役員各位のご尽力と会員各位のご支援によりここまで発展してまいりました。厚く御礼申し上げます。

さて今回は我が同窓会活動にとりまして、とりわけ大きな御指導・御鞭撻をいただきました故市川良輔先生の追悼特集と致しました。多くの皆様から追悼文が寄せられ、改めて先生のお人柄がしのばれる所でございます。じっくりとご覧になっていただきたいと思ひます。

次に毎回申し上げておることでございますが、現在同窓会の方針は

1. 継続性の重視
2. 個人負担の軽減
3. 人材の育成
4. 情報の共有化
5. 健全賤政の維持

をめざしております。このうち第3項の人材育成がいまいち進歩しておりません。ぜひ同窓会活動に興味ある方の積極的な参加を期待しております。特にネットワーク化が進みつつある現在、新しい手法・考え方に富んだ人の出現を待っております。

平成9年は2年に一度の総会の年です。新しい趣向も取り込みながら秋の一日を予定しております。ぜひ多数の皆様と旧友を暖めるチャンスとして下さい。

会員各位のより一層のご活躍とご健康を祈念致します。同時に同窓会活動へのご御協力もよろしくお願い致します。



施設の現状と課題

事務部長 長谷部 昌弘



本校は創立以来35年を経過し、歴史と伝統を守り、優秀な学生を社会に送り出し、成果を上げているところです。

この間、さまざまな分野で活躍する卒業生も約4900人を越えています。最近の施設等の現状及び整備状況と、今後の課題について説明します。

1 本校の概要(平成8年5月1日現在)

- (1) 設立 昭和37年4月1日
- (2) 設置学科 5学科 修業年限5年
 機械工学科 40名
 電気工学科 40名
 電子制御工学科 40名
 制御情報工学科 40名
 物質工学科 40名
 計200名
- (3) 専攻科 3専攻 修業年限2年
 機械・電気システム工学専攻 8名
 制御・情報システム工学専攻 8名
 応用物質工学専攻 4名
 計20名
- (4) 学生数 1,093名
 (うち、女子学生178名)
- (5) 専攻科学生吸数 23名
 (うち、女子学生4名)
- (6) 留学生 8名
 マレーシア 2名
 インドネシア 3名
 ヴィエトナム 1名
 モンゴル 1名
 中国 1名
- (7) 高校からの編入学生
 各年度 約20名
- (8) 大学への編入学
 毎年 約70~80名
 (卒業者の35%程度)
- (9) 教育職員
 教官 82名

その他職員 60名
 計142名

2 施設等の現況

- (1) 土地 90,220㎡
 (うち、運動場敷地21,705㎡)
- (2) 建物 33,181㎡
 (管理棟、講義棟、各学科棟、体育館、学生寮他)
- (3) 学生寮 7寮(うち、女子寮2棟)
 寮生 572名(定員)

3 最近の施設整備状況及び計画

- (1) 平成3年度
 ○物質工学科生物工学実験棟新築
 (R2—513㎡)
- (2) 平成4年度
 ○女子寮(明峰寮)増築
 (R4—880㎡)
 ○寮食堂増築(R1—68㎡)
 及び同改修(R1—594㎡)
- (3) 平成5年度
 ○学生寮(栄峰寮・光峰寮)改修
 (R4—3,030㎡)
 ○学生寮(翔峰寮)新築
 (R5—1,751㎡)
- (4) 平成6年度
 ○制御情報工学科実験棟新築
 (R4—780㎡)
 ○運動場夜間照明設備新設(6基)
- (5) 平成7年度
 ○学生寮(雄峰寮、秀峰寮)改修

- (R3.4—1,735㎡)
 (6) 平成9年度
 ○専攻科棟新築予定
 (R4—1,160㎡)

4 今後の課題

平成8年度に専攻科が設置され、第1学年に23名の学生を受け入れました。専攻科の建物は、近々のうちに設置される予定です。これに併行し、一般教室狭隘化の解消は、学生の体力向上により、面積拡張図る必要がある。さらに、平成4年度から寄宿舎の居住環境改善を進めてきたが、未改築・未改修のも

のが2棟残っており、これらの実現に向けて努力しているところです。

一方、設備の面をみると、技術の進歩が著しい産業界に対処するためには、先端設備の導入が必須の状況となっております。さらに高度な教育・研究環境を設備・充実すべく鋭意検討を行っている。

若者の人口が減少するなかで、優秀な学生を確保し、高度な教育を施して、企業に役立つ人材を育てることが、これからの厳しい社会に対処する高等専門学校の姿と考え、努力を惜しまないつもりですので、皆様の御協力をよろしくお祈りいたします。



学生課の一年

沼津工業高等専門学校学生課長 宮腰 秀弘



本校は、昭和37年に5年間一貫教育による高等教育機関として創立されて以来今年で34年目を迎え、同窓会も昭和42年に発足し、技術者としてさまざまな分野で活躍する同窓生が平成9年3月で4900余名となります。今後の同窓会活動が益々発展するようお祈りいたします。

平成8年度の学生課関係について、簡単に述べさせていただきます。

今年も学生課の行事は、新生211名、留学生3名、編入生16名を受け入れ、4月8日に恒例の入学式から始まり、始業式・新生の合宿研修といよいよ学生課の仕事が始まった。

5月中旬には、寮生による寮祭、及びスポーツ大会がおこなわれた。

6月は、本校の概要紹介を主に静岡県内の約52校の中学校訪問。

7月は、東海地区体育大会が行われ、全国大会出場はサッカー、個人では、バドミントン、柔道、水泳の各種目であり今後他の競技の活躍を期待する。

8月には、県内外の中学生に沼津高専を自分の目で見てもらい、本校への進学を意志を固めてもらうことを目的に、昭和57年から行っている一日体験入学が実施されました。この一日体験入学により毎年多数の学生が本校を知り入学を希望するものと思われます。

10月は、東海・北陸地区10校20チームが参加し、若い頭脳が創造力をぶつけ合う知の祭典ロボットコンテストが本校において開催され、沼津高専Bの「ひとりのできるもん」が優勝し全国大会出場を果たしました。残念ながら全国大会は2回戦で敗れました。又、各スポーツ競技の高校新人戦が始まった。しかし、全国的に部活動の人気偏向や厳しい練習を敬遠するなどの影響からか、大会参加を取りやめたりチーム編成が不可能になったりする部が出ている。本校も、部員の減少により野球部の新人戦欠場、及びラグビー高専大会の欠場という結果になっている。本年度より専攻科が設置され23名の学生が入学した。専攻科の校舎は、平成9年度に尚友会館の横に4階建ての建物が建設されることになった。

11月は、第31回高専祭が行われたが、学生展示等より年々模擬店が多く見られるような傾向である。又、恒例のマラソン大会は今年度は中止。

12月は、吹奏楽部による第28回ポップスコンサートが沼津市民文化センターホールで演奏されたが部員が2名、OBの協力で演奏ができた次第である。この稿を書いている1月末には3年生のスキー合宿研修があり、全員無事に帰校してもらいたいと思っている。

2月は、平成9年度の入学試験が始まり、優秀な学生が入学してくることを願っている。

3月19日に卒業式を迎える予定であり、また1年の始まりがもうすぐやってくる。

なお、今年は卒業生213名のうち、約半数が大学・専攻科へ進学し、就職する者も100%内定している。以上、学生課及び学生の現況報告をしましたが、いままで諸先輩が築いた伝統ある沼津高専の歴史を受け継いでいくためにも、学業はもちろん運動部・文化部の部活動が活発になることを期待したい。

最後に今後、揺れ動く社会・高等教育の中で21世紀へ向け、優秀な学生を確保し、沼津高専の更なる発展をめざして、その一助になればと思っております。

専攻科について

沼津工業高等専門学校 専攻科主任 (物質工学科教授) 宇井 倬二



ご存じの方も多いと思われませんが、専攻科が沼津高専に誕生して、間もなく一年を迎えようとしています。専攻科とは高専卒業後、さらに2年学修する課程であり、修了後学位の取得が可能なシステムで、以下に少し詳しく説明させていただきます。

専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度で基礎的な知識及び技術を教授し、もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのために機械工学科と電気工学科を母体とする【機械・電気システム工学専攻】、電子制御工学科と制御情報工学科を母体とする【制御・情報システム工学専攻】、物質工学科を母体とする【応用物質工学専攻】の3専攻を設けています。

定員はそれぞれ8名、8名、4名で合計20名、2学年で40名です。現在は10名、7名、6名の計23名が、専攻科で学んでいます。次年度の学生の入学選抜も終了し、4月からはさらに9名、9名、6名の計24名が入学する予定です。

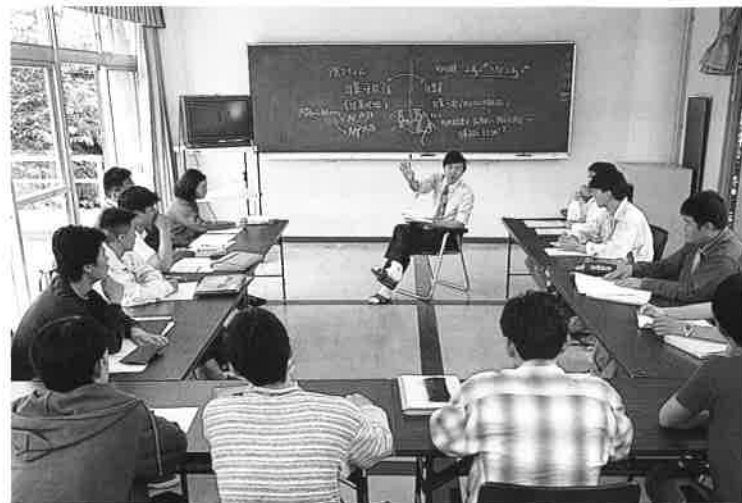
教科内容は【専門科目】として卒業研究に相当する特別研究を中心に実験、演習、実習がそれぞれの専攻に設けてあり、それぞれの教官の専門性の高い科目を講義科目として配置しています。すべての専攻に共通の【専門基礎科目】として工学基礎科目と情報関連科目を置き、どの専攻の学生も情報機器の原理や取り扱いに習熟できるようにしてあります。また、国際性を豊かにするために語学を重視し、教養を高めるための【一般科目】を置きました。【専門基礎科目】の存在は沼津高専の特徴の一つになっています。

これらの科目について62単位を修得することが修了要件ですが、16単位を放送大学で取得し、論文に関する学位授与機構の審査に合格すれば、学位が授与されます。

入学の方法ですが、一般的な学力試験による入学の他に、校長推薦による入試と社会人入試があり、社会人の場合は企業に在籍したまま勉学ができることになっており、現在1名ですが該当者がいます。

沼津高専は大学編入希望の学生が多くなっている昨今で、全国の大学に多くの人材を送り出しているのになぜ専攻科を設置する必要があるのかという疑問が、準備の段階で内外から寄せられました。高専が今後発展するためには地元の社会と密接に連携して行く必要があり、社会人の受け入れが大きく寄与すること、教育の質的向上にも専攻科の存在が必要なこと、工業高校からの編入生をもっと長い期間教育したいことなどを説いて設置が認められました。今後社





会人の入学者が増えることを期待しています。

最近、新居浜高専からアンケートがあり、学生の実態調査が行われました。その結果、本校の専攻科生が感じていることが集約されて出てきました。研究に関しては満足しているという回答が多く、講義に関しては不満が多数出されています。その原因は専門性の高い科目が2年に開講されるため、専門に入ったという

実感がわからないことと、学力差が大きい学生のどこに焦点を合わせて講義をしたらよいかという教官のとまどいにあるように思われます。いずれにしてもまじめな回答ばかりで、とくに企業経験者の回答は頼もしく、今後に期待できます。

そろそろ、就職や大学院進学を選択しなければならない時期になって来ました。それぞれの希望に合った将来が設定できるように努力していきます。

専攻科は発足したばかりで、建物もなく仮住まいの毎日です。担当教職員一同今後を期して奮闘していますが、絶大なるご支援をお願い申し上げます。



平成8年4月 専攻科入学式



特集

故・市川良輔先生を偲んで

弔詞

梅雨の晴れ間という言葉がぴったりの良く晴れた平成八年七月四日、市川先生はついに遠い旅に立たれました。思い起こしますと三十四年前、新しい学校制度である沼津工業高等専門学校第一期教師陣として仮校舎の金岡中学で私達新入生を温かく迎えてくれました。期待と不安の不安の入り混った私達十五才の少年をいかにして中堅技術者として育ててゆくか、先生も又新しい道に微かな不安もあったのではないのでしょうか。しかしそのようなことは微塵にも顔に出さず自信と寛容さを持って私達を受け入れてくれました。

翌日から早速始まった先生の授業はまずもって「一流の技術者たるには専門の分野だけ優秀であってもだめである。深く知識を持ち巾広い人間性を持つ事が必要である」との信念を持たれ実にユニークな講義でありました。講義の内容そのものは難しいことも多かったように思いますが、時々話されるご自分の波乱に富んだ青春時代をもとにした経験談は実にユーモアあふれクラス中爆笑に包まれるのが常でした。おかげで先生の授業では居眠りをする者はいませんでした。私達学生はいつしか市川先生の講義が待ち遠しくなる程の人気でありました。

又生活指導の面においても非常にめり張りのついた教育をされました。特に国文学専攻であった先生は万葉集の世界からの言葉を引用し、男子は強く逞しく「ますらお」として振舞え、卑怯な事はするなと口を酸っぱくして言われました。今後如何に時代が進もうとも常に通用する教えではないでしょうか。

さて先生は学校内での指導に忙しい中、多くの業績を残されました。私達同窓生にとりまして永遠に忘れる事のできないもの、それは我母校沼津高専の校歌であります。この校歌を先生は作ってくれました。自分達の校歌を自分達の先生が作ってくれる、こんな恵まれた話はめったにあるものではないと思います。母校沼津高専がある限りこの歌は不滅です。

又先生は私達同窓会活動にとりましてかけがえの無い存在でありました。同窓会設立数年後の危機が訪れた時、市川先生が先頭になって私達の尻をひっぱたき進むべき方向を指導してくれました。その後もずっと同窓会の顧問あるいは名誉顧問として私達の活動を援助していただきました。おかげさまをもちまして沼津高専同窓会は会員数四千数百名迄増え、活発な活動を行っております。

更に先生は母校開設十周年、二十周年といった節目節目には中心となって記念誌の発行に尽力されました。まさに市川先生あつての沼津高専の歴史ありといった感であります。

このように私達にとっては良き先生であり、おやじのような市川先生がもうこの世にいないなんてまだ信じられません。奇しくも沼津高専開設三年目の七月、時の校長、井形厚臣先生がご逝去されたのと同じ月に先生は帰らぬ人となりました。井形先生との間にあった男同士の厚い信頼関係がこのような形になったのではないのでしょうか。まさに先生の言われた「合縁機縁」だと思えます。

まだまだ楽しい事、苦しい事いろいろと思い出は尽きません。しかしただ嘆き悲しんでばかりもいられません。先生の教えを思い出し、私達は強く生き、次の世代の人を育ててゆかねばなりません。それが先生に対するご恩返しだと思います。本当に長い間の人生、御苦労様でした。今はただ静かにお休み下さい。

最後に沼津高専同窓生四千数百名の感謝の気持ちを込めて先生がお作りになった校歌をお送り致します。



東海にそびえて名あり
ゆるぎなき富士の高嶺よ
仰ぎ見る沼津が丘に
わが心直くゆたけし
日本の工業が呼ぶ
若き日の五つ年今ぞ

新たなる使命に満ちて
科学する道一筋よ
学びなす礎とわに
わが腕さやけく強し
日本の工業が待つ
若き日の五つ年今ぞ

天地のただふところに
伸び急ぐ小林が樹よ
春秋のいそしみ深く
わが希望さだかに遂げん
日本の工業興こす
若き日の五つ年今ぞ

では先生、さようなら

平成八年七月六日

沼津工業高等専門学校同窓会会長 木ノ内 倫弘

市川良輔先生追悼句集

合縁機縁

平成八年八月十八日 沼津高専同窓会有志

市川良輔先生 追悼の集い

平成8年7月4日未明、沼津高専名誉顧問の市川良輔先生は、入院先の順天堂大学病院にて御逝去されました。享年七十六歳でした。

同僚の教官、数多の教え子と大勢の方々に親しまれた先生に、心より哀惜の意を表します。市川先生を偲び、ここに有志による集いが催されることになりましたが、御多忙中にもかかわらず、御参席して頂きました方々には厚く御礼申し上げます。

又、急なること故、御参席叶わずコメントに託して頂きました大勢の方々に對しましても深く御礼申し上げます。



昭和42年3月20日 沼津高専第1回卒業式

日時●平成8年8月18日

会場●静岡市「日興会館」

参席者●32名

●現及び旧教員（敬称略）

工藤 圭章 大野 武 朝比奈 博 藤野 紫朗 渋谷 茂雄
大橋 定 三ツ井東司 宇井 侘二

●旧職員（敬称略）

高木英子（旧姓一杉） 浅沼高子（旧姓円谷） 中村 久子 須田 まさ

●卒業生（敬称略）

M1	跡部 恵一郎	塚本 裕次郎	浜田 健明	山田 久夫
E1	大日向 一郎	柘植 正隆		
M2	市川 利正	入手 和秀	大久保英男	大畑 一夫
	加藤 昌弘	金田 友義	駒井 隆雄	斉藤 恵吾
	佐藤 喜一	仁科 和晴	原川 実	松永 博彬
	無州 輝行	村上 僖一		



平成8年8月18日 日興会館にて

●挨拶

工藤 圭章 前校長先生

皆さんのお顔を拝見してますと勿論ですが全てOB、私もこの三月で退職し同窓会の一員になったわけでございます。今思い起こすとアメリカの独立記念日の7月4日、丁度私が奈良の「平城宮大極殿委員会」に出ている晩でございます。泊まっていたホテルに東京の家内から、市川先生が亡くなられたという電話が入りました。残念ながら奈良におりましたので、お通夜にもお葬式にも出れなくて電報で済ませてしまいました。奥様からは後ほど丁寧なお手紙を頂戴致しました。



昭和64年11月23日 沼津高専同窓会総会にて

市川先生は同窓会にはいつもお見えになられまして、沼津では「松乃寿司」にはほとんど毎回顔を出されていたように思います。あまりお飲みにはなりませんでしたが、本当に真面目な方で、先生、今お亡くなりになっても先生の心は私共の校歌の中にまだ生きています、そう申し上げても良いかと思えます。

今日市川先生を偲びながら、且つ又一期二期の皆様方と交流を深めることができるのは本当に幸いでございます。もうお盆も過ぎました。あまり湿っぽい話ではなくて、又新しい人生が開けていくということを考えて、この夏の夜の一席を皆様と語り合いたいです。

仁科 和晴 同窓会副会長

本日は静岡で二期の有志の方が、市川先生を偲びながらの集いを企画してくれまして、このように集まって頂きまして本当に有り難うございました。

私は地元函南に住んでいましてお葬式に行きまして。

ここで市川先生を偲び、黙祷をして頂いてからお話をさせて頂きたいと思えます。

恐れ入りますがご起立をお願い致します。

(全員起立し修善寺の方に向かって一分間の黙祷)

先ほど前校長先生のお話にもありましたように、市川先生は我々が入学した時からの先生で、非常に思い出深いことが沢山あります。

お葬式でも韮山高校時代の友達、教え子の方々からの弔辞が大変多く、その一つ一つが大変感激しながら聞き入っていました。沼津高専の同窓会からは木ノ内会長が出席してくれまして、特に校歌を作詞して頂いたということで、皆さんに校歌を全文読んで頂いて話しをしました。今の日本の現状を見ますと大学を出ても就職が大変厳しく、会社に勤める人、自営の人にとっても、何とかして少しでも新しいものを創り出すことが求められてきました。

“日本の工業を興す”ことが本当に求められている時期が来たなと思ひながら、校歌の説明を

聞いていました。今日はそんなことも含め皆さんに導いて頂ければ嬉しく思います。この後も引き続き皆さんのお話をお願い致します。

献杯 朝比奈 博 先生

市川先生を思い出して、皆さん、暑いところをお集まり頂いて本当に心からお礼申し上げます。私もお通夜に行きまして。その時の気持を思い起こしながら、皆さんと一緒に市川先生の霊に思いを込めて、お慰めしたいと思ひます。杯を挙げて下さい。献杯!



平成8年7月5日 お通夜の席にて

●参席者より一言一句

大橋 定 先生

市川先生が突然亡くなられて、本日有志という形で市川先生を偲ぶ会を設けてくれまして、個人的には大変有り難く思っています。

昭和37年、金岡中学の時に来られた一期の先生の中で、三ツ井先生と私が静大系で、朝比奈先生、渋谷先生、岡田先生達は県教委からお見えになりました。その中の一人が市川先生でした。ニックネームの“だんちゃん”というのは、金中の時に商事会社の社員が何かの売り込みに来た時に私が対応したんですが、その時“あの先生は何という名前ですか？だんちゃんというニックネームしか出てこないんですが”と聞かれました。“何で？”と聞くと、韮高時代のニックネームが“だんちゃん”ということでした。私は例の調子でこのことを多分学生に早々と喋っちゃったんでしょうね。非常に気さくな先生でした。

今年の3月20日頃、卒業式のあと修善寺で機械科の納会がありまして、その時市川先生のところへ寄ったんです。年に一、二度必ず遊びに寄って“元気！”とそんなお付き合いをさせて頂いてました。残念だったのは4月1日か2日頃に市川先生が順天堂大学病院に入院したんですが、亡くなるまでの三か月間私も三回位友達のお見舞いにそこに行ってるんです。まさか先生が入院しているとは聞いていなかったので、遂に会えなかった。それが一番残念です。

朝比奈 博 先生

昭和37年の4月、沼津高専が金岡中学のボンボロ校舎に移った時、第一期の教官は確か9名お見えになりまして、金岡の水一金水会という会を組織したんですが、その名前を付けてくれたのが市川先生でした。

亡くなられた7月4日の未明、病室で息を引き取られたとのお話を、その日のお昼頃学校からの連絡で伺いました。早速修善寺のお宅に伺ったところ、市川先生の霊が呼び寄せてくれたと今でも思っているのですが、大橋先生、野中先生、金田友義君も見えまして、期せずして沼

津高専の会合ができました。市川さんを偲びながらお通夜の席上思い出話をしたものでした。市川さんと19年間、ある時には二年間教官室を同じくしたことがありますので、余計印象深いものがあります。

本当に心から厳肅に、慎んでご冥福を皆さんと共に祈りたいと思います。

藤野 紫朗 先生

市川先生の思い出はちょっと色気のあるお話ですが、女子学生のいるクラスと、M1、M2の男子ばかりのクラスとでは源氏物語の講義内容はだいぶ違っていたようです。ご本人がそう言って説明してくれたことがありました。

現在私は高専のすぐそばに住んでおりまして、朝起きて南戸を開けますと図書館とか物質工学科の後から建てられた部分、そして国道246号の近くに建った寮などが良く見える所にあります。

渋谷 茂雄 先生

私は昭和63年に定年になり、引き続き非常勤として一、二年の化学を担当しています。

市川先生とは高専ができて以来の付き合いで、大変明るい感じの方で時折ご自分のことを語ってくれました。先生は韭山高校から高専に移られまして、新しい学校の先生をやるということで、非常に張り切っておられました。又君達のような大変優秀な方を教えるということ非常に名誉として、大変努力されていたように思います。

急にお亡くなりになられたましたが、先生として悔いのない一生を終わられたと思います。先日奥様にお会いして、亡くなられた時のご様子をお聞きしたのですが、先生は持病とは別の病にかかれまして、手術もできなくて治療を続けておられました。急に高熱を出されまして亡くなられたという経過のようです。

私とも年齢が近く非常にショックを受けました。

三ツ井 東司 先生

私と市川先生の出会いなり、思い出についてお話したいと思います。

昭和37年の学校創設以来、市川先生が61年に退官されるまでの24年間、大橋先生と私が公的にはお付き合いをさせて頂きました。その間、校歌の作詞や昭和49年頃の学園紛争でのキチッとした対応、あるいは授業をやりながらの毎日の中で、徹夜徹夜でやり遂げた立派な二十周年の記念誌などが、思い出として印象深いものがあります。

個人的なことでは昭和38年、一期生の達磨山遠足の下見に沢田先生と一緒にいった時のことですが、市川先生から帰りに是非家に寄るよう言われました。達磨山から修善寺に下りる途中にある先生のお宅に寄らせて頂いて、ご馳走になったのが温泉付きの風呂でした。高専の先生というものはこういう所に住んでいるんだと、それは大変感激もしビックリもしました。

又、沼津高専バスケット部があまり芳しくなかった頃、ユニホームを新たに作り直すべく、お願いしたのがユニホームのネーミングです。いろいろと字体を一生懸命に書いてくれて、その内の一つをユニホームの表にさせて貰いました。

家が区画整理で新しくせざるを得ない時、表札をお願いしたところ快く書いて頂きまして、それを刻んで今でも飾らせて貰っています。

大野 武 先生

私は昭和38年、創立二年目に安土先生と一緒に赴任して、昭和44年まで沼津高専にいました。市川先生はよくパイプ煙草を愛用されておりまして、当時としてはなかなかハイカラな方だなあと感じていました。

当時は創立して二、三年目と間もない頃で、高専の中の公務、教務とか学生関係のことがまだ定着していなかったんです。最初の二、三年は教務関係のことで市川先生とよくお話をしました。今日、当時の先生方がこうしてお元気でいらっしゃることで、大変嬉しく思っています。

数学の授業は当時としては非常に画期的だったと思うんです。高専の三年次には大学一年のことを、四年になりますと応用数学もありまして、フーリエ級数とか微分方程式など大学の二年次、特に工学部関係の学生が勉強することをやりました。諸君達は当時としては非常に進んだカリキュラムの中でやってきましたが、又学生も大変優秀でした。

皆さん、これからもお元気で活躍されることを願っています。

宇井 侘二 先生

皆様には初めてお目にかかります。

沼津高専では専攻科の主任と物質工学科の主任をさせて頂いております。工藤先生のお陰で専攻科ができて、今一年生が23名入っております。既に夏期講習でお世話になっておまして有り難うございます。今後毎年20名の後輩ができていくことにはなりますが、卒業生の就職で又皆さんにお願いをしなければいけないという状況にあります。

私の名前は、兄貴に「宇井 純」と公害の方でちょっと有名なのがおりまして、その弟が私、「宇井 侘二」です。フランス語で「ムッシュー ウイ」と言われて、「ムッシュー ウイ」と応えればそれで済むわけです。英語では「We」でございますので、今後お見知りおき頂ければ有り難いと思います。

中村 久子さん

一期生、二期生の皆さんにお会いするのは本当にお久しぶりで、胸が一杯になります。市川先生の追悼の会ということですが、皆さんにお会いすることが大変嬉しく、市川先生の悲しみは向こうに行ってしまいました。

皆さん立派になられて、これからもどうぞご活躍下さい。

浅沼 高子(旧姓円谷)さん

私は二期生と一緒に昭和38年に入ったのですが、今日は一期生と二期生の方々にお会いして、顔を見てますとだんだん思い出してきます。学生関係のところにはいたものですから、名前を聞きますとパッとフルネームがみんな思い出せました。

市川先生はいつもお腹を突き出して、スリッパをベタベタさせて歩いていましたが、この中にも市川先生タイプになられた方も二、三名、皆さん貫禄がつきまして大変嬉しく思います。これからは日本の工業のため頑張ってください。

跡部 恵一郎(M1)

“だんちゃん”の一番印象に残っているのは、入学早々自分からあだ名を披露しまして、こ

の人はすごい人だと思ったことです。いろいろ思い出がありますが、国語の授業は興味深く聞きまして良かったと思います。

私は「国鉄」に入りましたが、しばらくして「電業社」に入り今ずっと続いています。最近職場も変わり現場仕事が多くなり、真っ黒になってやっています。

塚本 裕次郎 (M1)

同窓会に出席するのは初めてで、大変ご無沙汰致しました。

今、真面目な公務員をやっています。

市川先生の国語の授業では、先生の話聞きながら専門学科の勉強をしていたような思い出があります。講義を聴きながら机の上では機械とか金材など、遅れていた科目をやってまして本当に申し訳なく思っています。又、市川先生は「釈超空」の最後の弟子と云ってましたが、時には「折口信夫」の最後の弟子とも云ってまして、どうして二人の先生が最後の弟子なのかよく分からなかったのですが、後に全く同一人物ということが分かりましたが、そんな思い出があります。

浜田 健明 (M1)

私は鳥取の田舎から出てきて右も左も分からず大変寂しい思いをしていた時、市川先生は担任でいろいろ心配して頂きまして、それが大変有り難く残っています。

何年か経って東京で同窓会支部を創った時、昔を思い出して源氏物語の講義をお願いしたところ、大変快くお引受下さったという思い出があります。

私はバレ一部にいましたが、ここに来ている無州君、原川君達と一緒に事務所の裏で真っ黒になってやっていた五年間を思い出しました。

山田 久夫 (M1)

昔、「鈴木」と云ったんですが、今、「山田」と申します。本当に三十年振りに皆さんとお会いしますが、僕は学校にいた覚えがありませんので、あの当時のことは本当に分かりません。

寮にも入らず通学していたんですが、いつも一番遅く学校に来て、帰りは一番早いということで、朝比奈先生にはよく叱られました。それだけはよく覚えています。

大日向 一郎 (E1)

現在「日立製作所」の情報通信事業部が本職ですが野島先生のお誘いで七年前から電子制御工学科で、半期週一回集積回路工学というものを講義させて頂いております。

市川先生の思い出として、定年退官された時「合縁機縁」という色紙を送って頂いたことが大変印象に残っています。その色紙と一緒に、高専入学当時の作文が同封されていたのには本当にビックリ致しました。それをカミさんに見られて気恥ずかしい思いをしたのですが、市川先生という方はすごい先生だなどつくづく思い知らされました。

柘植 正隆 (E1)

市川先生には叱られたことだけはよく覚えています。

私は十年前静岡で事務所を開設しました。会社はシステムハウスのような感じのもので、若い人達に仕事を教えてもらって稼がせてもらっています。平均年齢28歳という大変若い会社で、私自身も常に万年青年でいるつもりです。

市川 利正 (M2)

市川先生の思い出はやはり校歌が一番印象に残っています。今でも校歌を思い出したりすると、若い頃の気持が蘇ってくるような気がします。

学生時代の思い出に、高専二年の時沼津市の高校駅伝に出場したことがあります。私もメンバーの一員として参加しましたが、この時沼津高専が優勝して沼津市立高校の十二連覇を阻みました。その当時私はここにいらっしゃる須田さんのお宅に下宿していました。須田さんのご主人に励まされ、“明日応援に行くから”と言ってくれまして、おじさんは大変お忙しいところを応援に来てくれました。その優勝を見届けた帰りにおじさんは交通事故で帰らぬ人になってしまいました。私も大変ショックを受け、未だに忘れられないことです。久し振りに須田さんにお目に掛かり、お元気でここに来てくれまして本当に嬉しく思います。

入手 和秀 (M2)

家内は「勝又弘美」です。私は「東芝」に入りましたが今は郷里に近い「ヤマハ発動機」におりまして、営業技術を担当しています。

市川先生の思い出というと、折口信夫先生、釈超空先生の話と、「ご新造さん」という奥さんのお話がよく出てきたのを覚えています。市川先生、非常にいろいろなことをよく知っていました。私も一生懸命短歌を暗記した思い出があります。先生のご冥福をお祈り致します。

金田 友義 (M2)

市川先生の急死を知らせたのは仁科副会長からの電話でした。とりあえず通夜に沼津（中村久子元寮母さん）三島（大川淑子元学生課長さん）を拾って車で修善寺に向った時は大雨でした。到着は通夜が始まってしまいましたが何故か修善寺では雨があがっていました。M1「HKS」の長谷川先輩、M3北川君始め多くの高専関係者が最後まで残っていたのを覚えております。市川先生にはM2中村洋君の「寮とじこめ事件」でこっぴどくしかられた若がい思い出と「男娼」と書いて「ニコチン中毒」と読むとってタバコ契煙書を煙にまいた気憶がわすれられません。又20同年時同窓会の副会長としてお世話になりましたが20同年史に陸上部の初の全国制覇の記事が小さくて写真もなく残念です。

大久保 英男 (M2)

市川先生は入学した時担任でした。国語の授業は男ばかりでしたので、所々色気のある話をして下さったんですが、イカツ顔の先生が恥じらいながら色気のある話をするものですから、非常に面白いなという印象を受けていました。私は語学が苦手で、国語以外は赤点を取ったことがなく、先生のところにお詫びに行った時“英語でメシを食うつもりはありません”と言ったら大変お叱りを受けた覚えがあります。

私はヤマハへ入り28年間勤めていますが、今インドネシアのジャカルタに住んでいまして、

今日たまたま出張で帰って来ました。今では部下に語学をしっかりやるように説教している立場になっています。

大畑 一夫 (M2)

市川先生はみんなから“だんちゃん、だんちゃん”と云われていましたが、私も市川先生という印象が薄いのですが、“だんちゃん”という呼び名にはとても印象が強く残っています。

ここで三ツ井先生にお礼を言いたいと思います。

私が高専三年の時、鮎壺の瀧の近く焼き肉屋で夕飯を食べている時に、三ツ井先生が入って来られまして一杯勧められました。私の初めての酒でした。

それ以来私は、酒がメチャクチャ好きになりました。

加藤 昌弘 (M2)

市川先生は二年の時担任だったと思いますが、東京オリンピックの時、学校をサボって開会式に行ってきましたが、それがバレて“お前、母親を呼んでこい”と言われ清水の三保から母親が学校に呼ばれまして、市川先生から非常に説教を受けました。それから何ヶ月か経って市川先生から“加藤、お前は本当は悪いヤツじゃないんだな”と言われたことが印象にあります。私は本当は、根っからのマジメ人間なんです。(全員爆笑)

駒井 隆雄 (M2)

私は高専時代、可もなく不可もなく優と良で過ごしたので、市川先生から叱られた記憶はないのですが、非常に個性豊かな感じがしました。

何と行っても校歌が非常に新鮮で強い印象を受けました。今日は皆さんと一緒に校歌を唄えることを楽しみにして来ました。

私は地元の「三菱電機」にずっと勤めていましたが、一年程前に鎌倉の大船工場に転勤致しました。家電品の火災や評価といった仕事をしています。

斎藤 恵吾 (M2)

私と加藤と辻、名倉、米山のサッカーOBは、この二、三年に一回は学校に行って現役と試合をやっています。

私が高専で覚えたことは、グラウンドの土ならしと酒とオートバイくらいですが、今日は久しぶりに皆さんに会えて本当に嬉しいです。

佐藤 喜一 (M2)

M2には「キイチ」というのが二人おりました、私の「喜一」というのが本当の「キイチ」と思うのですが、もう一人がニンベンの付く「僖一」で、その関係で‘人でなしのキイチ’ということで高専の五年間を過ごしてきました。

私は技術系の学校を出ながら、「鈴与商事」という油を売っている会社におります。皆さんの話を聞いてますと、学生の頃のことがいろいろと思い出されてきます。

又こういう暑い時期になりますと、夏休みも終わりそうになるのに、まだ宿題をやっていない夢を見てうなされることがあります。

松永 博彬 (M2)

入学はM1、卒業はM2の「松永」です。つまり今日の集まりでは、私がM1とM2の‘架け橋’になっているわけです。

私は今、この「日興会館」で美容師という仕事をしています。市川先生とはいろいろ係わりがあるんですが、私は本当はマジメなんです、たまたま酒を飲んで寮に帰って来たのを市川先生に見つかりまして、校長室に親父と一緒に呼ばれました。その時初めて校長室に入ったんですが絨毯が敷いてありました。そういう室に入ったという思い出があります。

又、一年生の夏休みと思いますが、熟語とかを書く宿題を出されまして一生懸命やりました。その熟語というのがいろいろな面で、今の私に役に立っているなというのが市川先生の思い出としてあります。

原川 実 (M2)

学生時代は同級生からは「あんちゃん」、先輩からは「あん」、後輩からは「あんちゃんさん」と言われまして、私の本名はあまり良く知られていないようですが「原川」と言います。

先ほど松永さんは、‘M1とM2の架け橋’と言っていました、私は北海道の青函トンネルを掘っていた頃に嫁を現地採用しまして、今では‘静岡と北海道の架け橋’になっております。

現在鉄建公団におりまして、電気が最も不得手だった私が山梨県でリニアカーの実験線を担当しています。

無州 輝行 (M2)

私は今、半導体関係の設計屋をやっています。

市川先生については、入学した頃中学時代に好きだった女の子がいて、どうしようかなと思っていた時、百人一首の中にある句を市川先生が教えてくれました。その意味がすごく印象に残って早速手紙に書いて出したという思い出があります。

村上 僖一 (M2)

私は卒業依頼ずっと地元の「巴川製紙」に勤めております。先輩には一期の「大原勇治さん」がいますが、現在アメリカに転勤しています。

市川先生は入学した時、担任の先生でした。先生が退官した時に立派な色紙を頂きまして、お礼のお手紙を出すつもりが結局出し損ねてしまいました。そんなことも頭に残って、それから二、三年後の一月に家族で修善寺温泉に一泊旅行した時、旅館の方に市川先生のお宅を教えてもらい伺いました。あいにく先生は高熱で体調を崩されているところで、残念ながらお会いできず玄関先で奥様に挨拶して帰ったという思い出があります。今でも先生の風貌、歩き方、授業の時の発声などが記憶にあります。

沼津工業高等専門学校 校歌斉唱

閉会の辞 金田 友義 (M2)



●コメントを寄せて頂いた方々

樋口 泉 第3代校長先生

「先生の御元気な折の姿を思い浮かべております。遥かに御冥福を祈ります。」

慶伊 富長 第4代校長先生

「御奥様へ
どうしても都合がつかせませんので、欠席致します。誠に申し訳なく存じます。新米校長の私は、特に市川先生にお助け頂きましたこと、感謝致しております。先生とは文人として磨き抜かれた貴なる品格で学生を指導されました。」



昭和64年5月13日

木戸 義一 先生

「沼津高専の創設当初から、よい校風、よい学生を目標に御一緒に勤めて参りました。市川先生の御遺徳を偲び、御冥福をお祈り申し上げます。御参会の皆様によろしく」

近藤 国臣 先生

「市川先生の学殖な話術、作歌など、余人の及ぶところ無く、敬服至極と思っておりました。高専で同じ室に机を並べて数年、御孝心、令嬢への心配りなど思い出します。(七十歳半ばまで非常勤に出ていましたが、八十路の坂に掛かってから心不全その他で三度入院加療を受けて以来、目、耳、脚の力が衰えて、階段の昇降、路面の凹凸に難渋致し、今回も不本意ながら欠席、悪しからずお許下さい。)」

岡田 泰栄 先生

「お骨折有り難うございます。私も参加したいと思ひながら、体調悪く寝たり起きたりの生活をしています。皆様によろしく」

岸岡 栄太郎 先生

「専門を異にしますので、ほとんどお話する機会がなかったと記憶しています。学生の気持ちをまとめることに骨を折られていたように思います。私からみると遥かな後輩でしたが早世なさったのは残念です。」



昭和64年4月1日

野中 宏 先生

「出席したい気持ちは山々ですが、健康上の理由で一人での遠出は困難になりました。市川先生への想いは一入のものがあります。集い

が楽しく、意義深いものでありますよう心から願って止みません。皆様によろしく」

佐々木 俊夫 先生 (令嬢 樋口由美子さんより)

「父は3月脳梗塞で倒れ、現在入院中ですので出席できませんが、皆様によろしくお伝え下さい。」

沢田 真養 先生

「海外体験学習で聖心4校の生徒を引率して出国します。不二聖心4年目です。市川先生は蕪山の生徒課長として高名な方で、学生課、学生会のスタートに当たって大変お世話になったことを思い出します。校歌の歌詞、今でも口にしてできる想い出深いものです。」

鈴木 潔 先生

「お知らせを頂き誠に驚いております。確か市川先生と小生とは同年齢だったと思います。小生、まだまだやりたいことが多々あって元気でいたいと思っておりますのに、かなりショックです。相続のため早くに高専を辞し、帰郷した小生に送って頂いた“沼津高専二十年史”は市川先生の面目躍如の圧巻でした。慎んで御冥福をお祈り申し上げます。」

渥美 武明 先生

「追悼に相応しい会でありますよう、素敵催しを願っております。慎んで市川先生のご冥福をお祈り申し上げます。」

吉村 靖夫 先生

「沼津高専での二年間の勤務の後、市川先生とはお会いしていませんが、毎年欠かさず年賀状を頂いておりました。人との交わりを大切にされる方だったと痛感します。御冥福をお祈りします。」

久米 重雄 先生

「昨年定年退官して非常勤の二年目をやっています。柿田川の保護と健康のため、卓球を週四回位やっています。市川先生とは在職中は丁度入れ替わりとなりました。」

池水 彰吾 先生

「市川先生が退官された年に、同時に小生は奈良高専へ移りましたから、沼津で二十一年間お付き合い頂いたこととなります。新人の頃市川先生は大先輩であり、叱られたこともありまし。沼津での最後の一年間、たまたま改修のため一般科目の先方は、電算機棟の一室で職員室よろしく楽しく過ごしました。市川先生とは隣同士に席があり、富士を見ながらいろいろ話をさせて貰いました。改めて市川先生のご冥福をお祈りします。」

掘米 徹 先生

「お招き頂いて光栄です。一、二期生には今も大変興味があります。皆さんが市川先生についてどういう思い出を持っておいでか、是非伺いたいところでした。既に定まった予定があった

のが残念です。良い会となりますよう祈ります。」

西垣 誠一 先生

「私の沼津高専での最初の一年が市川先生の最後の一年でした。その一年は校舎の耐震工事の年で、図書館の一階の一室に職員室のごとく一般科目のスタッフが集まっており、市川先生からいろいろお話を伺うチャンスがありました。」

山岸 文明 先生

「市川先生には公私とも大変お世話になりました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。」

勝呂 譲 先生

「漫画に描きやすいお顔でした。教官会議中は似顔絵を描いて、退屈を紛らわしていたものでした。お声、歩き方、笑い顔等、今では懐かしいばかりです。合掌」

石川 文夫 (M1)

「遠方のため当日出席できませんので、皆様よろしく伝えて下さい。帰る時には墓参りに行きたいと思っておりますので、菩提寺が判りましたら面倒でも教えて下さい。」

市川 光夫 (M1)

「市川先生の死を知り驚いております。年月の経過、流れを感じます。心からご冥福を祈りたく思います。」



昭和62年10月26日 沼津高専同窓会総会にて

岩瀬 浩 (M1)

「市川先生といえば校歌生みの親として心に残っています。授業の合間合間にテープで繰り返したとき込まれたが、今では全部は唄えません。」

久保田 幸夫 (M1)

「突然の訃報に悲しみで一杯です。先生は金岡時代からご指導下され、今でも会報等で特徴のある筆写を見るたびに思い出しておりました。修善寺のお殿様といった御風貌の中にユーモアを交えながら、熱のこもった講義は強く心に残っております。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。」

白井 一夫 (M1)

「家が遠くないので葬儀に参列しました。伊豆箱根鉄道で通学電車が一緒だったこと、アンパンのような顔で笑うと、冒険ダン吉にソックリなこと、俳句を創った時季語がなく川柳になってしまい、恥ずかしかったことが思い出されます。池田弥三郎先生のことを“だんちゃん”は尊敬していたことも思い出されます。」

鈴木 信明 (M1)

「市川先生がご逝去されたこと、この葉書で知り大変驚いています。臨海寮の当直室で楽しいお話を伺ったことが思い出されます。大変お世話になりながらご恩返しの一つもできず、申し訳ない気持で一杯です。追悼の会が盛会であることを祈ってます。」

長谷川 晴男 (M1)

「先生の和歌の講義、特に脱線されたお話が印象深かったことが思い出されます。現在アルゼンチンに駐在中で、10日ほどの冬休みで帰国しています。8月8日には離日せねばならないので欠席致します。」

長谷川 弘之 (M1)

「近況は相変わらず多忙ですが頑張ってやっています。“だんちゃん”は少し早く旅立ってしまいました。残念です。」

柳下 福蔵 (M1)

「返す返すも母校沼津高専に対して、大変惜しい人を亡くしてしまい残念でなりません。慎んでご冥福をお祈り致します。」



昭和64年5月13日

吉岡 守久 (M1)

「私は市川先生とは皆さんより早くお会いしたのではないかと密かに自慢しています。というのは市川先生は高専へ転任される前、韭山高校へ勤務されておられましたが、私の高校受験の時先生は試験教室の指導教官で、そこでお顔を拝見しました。高専入学後この事を話したところ、“お前は試験中もアクビしていた”と云われました。市川先生のご冥福を心からお祈り致します。」

渡辺 勝治 (M1)

「先生ご逝去の報をご連絡頂き有り難く存じます。先生の尊骸には別途ご挨拶致す所存でおります。私は修善寺とは程遠い所にいます。参加できなくて誠に御免なさい。先生のご冥福をお祈りしています。」

伊藤 豊 (E1)

「海外出張につき申し訳ありませんが出席できません。心よりご冥福をお祈り申し上げます。」

草分 孝太郎 (E1)

「市川先生のご冥福を悼み心からご冥福をお祈り致します。」

近藤 勉 (E1)

「忘れ難き先生ですが、所用のため失礼致します。」

近藤 司 (E1)

「創設期の校舎の周りは林、土の自然に囲まれていました。先生の授業の姿、声が浮かぶ。在りし時、在りし日……」

田中 昌一 (E1)

「‘果報は寝て待て’の解説が印象に残っています。しかし私は相変わらず果報を寝て待っています。」

大橋 彰 (M2)

「仕事の都合で参加できません。市川先生は高専五年間の中で最も印象深い教師の一人でした。皆様によろしく伝えて下さい。」

樫下 耕一郎 (M2)

市川先生の思い出として

1. 中国戦線での体験話

読む物がなかった。全兵士がたった一枚の新聞の切れ端を、何回も何回も繰り返し読んだ。文字に飢えた時代であった。今我々はその有り難さをともしれば忘れがちにならないだろうか。

2. 源氏物語講義

人物が不幸に見舞われると“私がこのような目にあうのは、前世での行いが悪かったからだ”という表現が多い。誰々のせいであつたという表現と違って周りに傷つく者がいない。

3. “本を沢山読め！読まないで脳ミソがブヨブヨになる”

加藤 昌一 (M2)

「先生の追悼会には申し訳ありませんが、欠席させていただきます。先生にはあることで相談に乗って頂いたこともあり、あの時はお世話になったと感謝しています。

源氏物語の話も興味深いものがあり、今となっては具体的な内容を思い出せず残念です。先生のご冥福をお祈りします。」

神山 信一 (M2)

「小生、‘赤貧洗うが如し’の学生生活を送っていたところ、日本育英会の奨学生として採用を快諾して頂いた事、大変感謝しております。」

亀沢 信次 (M2)

「家族で米国ツアーに出かけるため、参加できなくて本当に残念です。

市川先生の短歌を中心にした講義は今でも思い出します。

出っ歯のことを山桜花などというのもシャレっていて、理工系の勉強ばかりの中で心癒してくれる講義でした。

校歌は本当に名歌です。いまでも‘日本を興す’心意気は残っています。」

武田 裕久 (M2)

「残念ですが先約があり、幹事のため都合がつかいません。次の機会にも是非声を掛けて下さい。慎んでご冥福をお祈り致します。」

成沢 克也 (M2)

「第一生産技術部エンジン技術室で、相変わらずエンジンの生産準備の仕事をしています。当日、工事の確認のため残念ですが不参加とさせていただきます。慎んでご冥福をお祈り致します。」

深沢 久 (M2)

「残念ながら当日は出勤の予定です。伊勢の田舎に家を見て、庭でカボチャ、トマトを作っています。伊勢は観光地です。是非遊びに来て下さい。」

松木 邦久 (M2)

「私、元気です。皆様によろしく！」

三石 保雄 (M2)

「上海よりご冥福をお祈り申し上げます。“だんちゃん”の笑顔が忘れられません。」

望月 照夫 (M2)

「お会いする度に朝比奈先生から“望月君が市川先生に厳しく叱られていた場面を思い出す”と云われますが、どの場面か思い出せません。(今シベリアのウスリー山中で、虎や熊の監視を受けながらイトウを釣りながら山歩きをしています。)」

山口 雅俊 (M2)

「入学して最初の担任が市川先生ということもあり、大変身近に感じておりました。校歌の言葉一つ一つを丁寧に説明して下さい、校歌に託された先生の思いを強く感じております。“ホントニ、マツタク、コンチクショウ”の落とし文句、楽しい授業が受けられました。有り難うございました。

慎んでご冥福をお祈り致します。」

内山 孝太郎 (E2)

「ベトナム勤務となりましたので失礼させていただきます。皆様によろしく伝えて下さい。」

加藤 絢之 (E2)

「市川先生は情熱と気骨を持った先生だと思います。慎んでご冥福をお祈り致します。」

鈴木 春良 (E2)

「入学したての国語の授業は、割と大人っぽい感じだったのを覚えています。校歌もよく歌いましたね。確か師匠が折口信夫先生とか、‘白鳥は……’なんていう和歌を教えた記憶が残っています。ご冥福をお祈り致します。」

中野 重正 (E 2)

「校歌の第一章は何故か記憶に鮮明です。慎んでご冥福をお祈り致します。」

深見 幸輝 (E 2)

「電気工学の授業のことは全く忘却の彼方ですが、市川先生の三十年前の授業は今でも夢にまで現れます。当時はそれほど真剣ではなかった私がどうしたことでしょう。娘が意外に文学少女で百人一首などに親しむを見るにつけ、多感な年頃に市川先生と会えた幸せをかみしめるこの頃です。」

望月 達彦 (E 2)

「ご無沙汰しております。残念ながら出席できませんが市川先生の文学的な猥談が印象に残っています。先生のご冥福をお祈り致します。」

若松 純夫 (E 2)

「うちのクラスには女性がいたので、古典の面白い話が聞けなかったのが残念でした。ご冥福をお祈り致します。」



西湘支部報告

沼津高専・西湘地区同窓会

【日時】 1996年10月26日(土)午後5時30分～

【会場】 小田原駅前『昇玉』TEL 0465-24-0961

【来賓】 電気工学科：平林紘治先生

【幹事】 増田徳一 (M01) 秋葉高志 (M04) 内藤 篤 (E10)
興梠 裕 (M13) 瀧 善久 (M13)

☆進行(司会：秋葉高志)

- (1) 開会の辞 秋葉高志
- (2) 乾杯の音頭 平林紘治先生
- (3) 幹事挨拶 増田徳一
- (4) 会計報告 内藤 篤
- (5) 来賓挨拶 平林紘治先生
- (6) 近況報告 参加者全員
- (7) 校歌斉唱 参加者全員
- (8) 閉会の辞 秋葉高志



☆1996年10月同窓会通信結果(10月20日現在)

葉書発送数	約130通
回答数	62通
住所不明	10名
出席者	11名

☆会計報告(1994年10月同窓会)

《収入の部》

繰り越し金	¥166,370.-
会費(¥6,500×14+6000)	¥97,000.-
二次会会費	¥12,000.-
御祝儀	¥10,000.-
本部からの補助金	¥80,000.-
収入合計	¥365,370.-

《支出の部》

往復葉書、印刷代	¥29,025.-
飲食代(二次会も含む)	¥143,100.-
写真、フィルム代	¥10,658.-
雑費	¥22,250.-
支出合計	¥205,033.-
《繰り越し金》残金	¥160,337.-

●通信欄●

- C18 林田充司：当日、先約がある為、残念ですが欠席させていただきます。
- E09 福山一成：2期4年の労働組合執行部の仕事を終え、職場復帰しました。今回は予定が入っている為出席出来ませんが、次回を楽しみにしています。
- E05 田栗順一：先約がある為、欠席させていただきます。
- E02 竹越友昭：興梠殿、ヨーロッパはいかがでしたか。
- E15 野島和久：平林先生には4年の時お世話になりました。よろしくお伝え下さい。
- C24 見上竜雄：現在神戸に下宿していますので、出席出来ません。よろしく。
- C24 石田康之：現在東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻、修士課程に在学中です。学会が近く、多忙のため欠席させていただきます。
- M01 柳下福蔵：来年3月に制御情報工学科の1期生を世に送り出すことになります。
- M02 勝俣 満：いつも出席出来なくて済みません。
- D05 坪井正和：研修の為自宅を離れていました。これからの案内は自宅をお願いします。
- C06 内藤元子：今回は主人だけ出席します。
- M03 三浦善明：JR西日本株も36万円台と落ち着き、次はJR東海です。現在新幹線の車両操配をしています。

※次回同窓会は、1997年9月開催予定です。

1996年西湘地区同窓会 出席者名簿

1. 電気工学科 平林紘治先生
2. E01 大日方一郎《卓球部》株式会社日立製作所交換機部
3. M01 増田徳一 《バレーボール部、化学部》油研工業株式会社応用商品部
4. M03 仲田富保 《野球部》日立プラント建設株式会社
5. M04 秋葉高志 《合気道部》化成オプトニクス株式会社新規事業推進室
6. M08 志村不二男《バレーボール部》新菱冷熱工業株式会社横浜支社
7. M10 小梁宏直 《サッカー部、ハンドボール部》積和不動産株式会社賃貸営業本部
8. E10 内藤 篤 《サッカー部》日立電子サービス株式会社
9. M13 興梠 裕 《バレーボール部》富士写真フィルム株式会社
10. M16 佐藤明行 《柔道部》三菱電機株式会社情報システム製作所
11. E18 稲葉正孝 《?》鐘紡株式会社システムG

現在までのご来賓名簿

- 1985年1月 三ツ井東司 先生
- 1985年8月 中村久子 寮母
- 1986年1月 市川良輔 先生
- 1986年8月 佐々木俊夫 先生・諏訪部豊 同窓会会長・平松雅彦 同窓会副会長
山本克之 同窓会事務長
- 1987年1月 渋谷茂雄 先生
- 1987年8月 大橋 定 先生

- 1988年1月 西谷元夫 先生
1988年8月 慶伊富長 校長・木戸 実 同窓会会長
1989年1月 野島敬一郎 先生・四條弘次 同窓会副会長
1989年8月 鷺津守一 同窓会事務長
1990年1月 渥美武明 先生
1990年8月 柳下福藏 先生・仁科和晴 同窓会副会長・坂井徳尚 同窓会事務長
1991年1月 黒下清志 先生・木ノ内倫弘 同窓会会長
1991年8月 勝呂 讓 先生・坂井徳尚 同窓会事務長
1992年10月 三ツ井東司 先生・木ノ内倫弘 同窓会会長
1993年9月 大橋 定 先生
1994年10月 朝比奈博 先生・仁科和晴 同窓会副会長・坂井徳尚 同窓会事務長
1995年9月 勝又瑛逸 先生・坂井徳尚 同窓会事務長

☆1995年9月新睦会の報告

- 9月30日(土) 午後5時30分から ●小田原駅前 昇玉
●ご来賓：一般教科 勝又瑛逸 先生 ●出席者：17名



各種イベント報告

ROBOCON'96

電子制御工学科助教授 長澤 正氏 (E9)



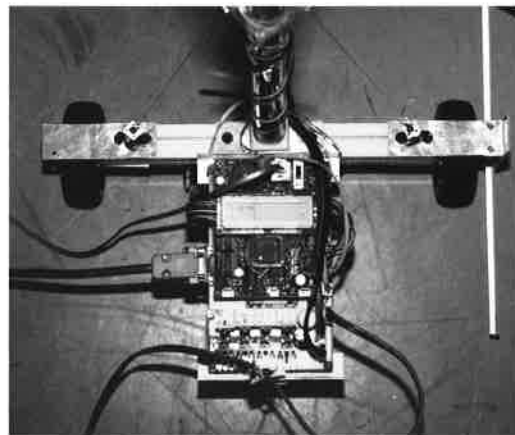
高専がマスコミに登場する唯一の大会“NHKロボコン高専部門”には、同窓会の皆様の関心も高いことと思われます。OBの方々とお会いする機会があると、必ずや話題になり「沼津は出てないの。」などと言われて心苦しい思いをすることもありました。今年度、私は学生に担ぎ出されて沼津電子制御工学科チームの指導にあたりました。東海北陸地区大会優勝、全国大会1回戦敗退という、天国からいきなり地獄に落とされるような結果になってしまいましたが、その顛末を簡単に報告させていただきます。

「ロボコンやりたいんですが」と私の研究室に電子制御工学科(D科)3年(現在4年生)の学生が数名やってきたのは平成7年の5月頃だった

と思います。しかし、ここ数年間D科はロボコンに参加していなかったもので、参加するには準備が必要であることをくどくどと説いているうちに、「1年間準備をして来年(H8)に参加するなら手伝いましょう。」と言ってしまったのが、今回のD科ロボコンチームの始まりです。それからというもの彼らは、私の研究室に居候を決め込み、ロボット作りを始めました。始めはRug warriorというMITが開発し教育に使っている自律知能ロボットキットの製作、次にそれを子どもが乗れるくらい大きくしたBig warrior(巨大Rug warriorをいつしかこう呼ぶようになりました)の開発など。これらを高専祭や沼津の市民行事に展示していくうちに、少しずつ技術を身につけていきました。

4月になり彼らも4年に進級、6月6日に待っていたテーマが発表されました。チームスタッフを募集したところ1年から5年まで総勢24名が集まり、電子制御工学科の教官全員のバックアップを得、D科全体でこのプロジェクトに取り組むことになりました。今年のロボットコンテスト東海北陸地区大会は、沼津高専が開催校ということで周囲からの期待も大きく、チーム一同全力を尽くして開発にあたりました。その結果、念願の地区優勝を勝ち取ることが出来ました。夏休みもほとんど毎日、競技会が近くなるとは深夜遅くまで本当によく頑張ったと思います。

全国大会では、シードされ優勝候補と目されながら惜しくも2回戦で敗退してしまいました。この時の学生たちの落胆ぶりは、筆舌に尽くし難いものがあります。敗因は、タイヤが空転したためでした。コンピュータで走行軌道を自律制御してい

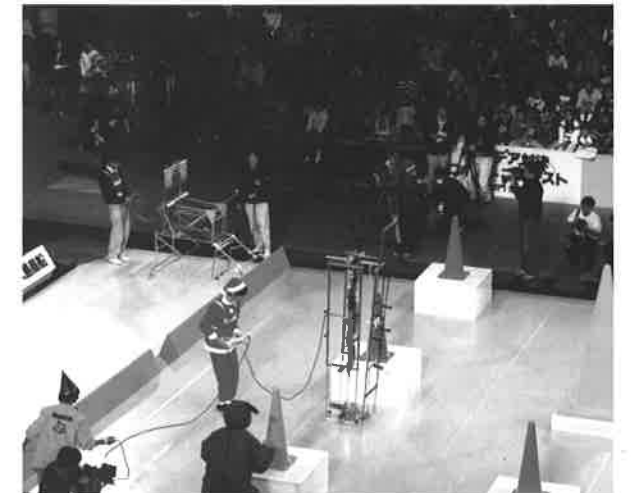


たため、タイヤの空転は致命的でした。競技場床面の汚れか、前日の取材でざらざらした床でデモ走行を何度もやったためにタイヤが摩耗したのか、そもそも設計時にグリップがもっと得られるような構造にすべきだったのか等等反省すべき点は多々あります。

よく「コンピュータなんか使って自動制御するからうまくいかないんだよ。」と忠告されることがあります。しかし、「ロボットと言うからには多少なりとも自律的に動く部分がないといけない。」というのが私の持論で、「D科のチームなら電子制御で動くロボットを作るべきだ。」がロボコンに教育的な効果も期待した私の指導方針でした。今回、この点についてはある程度の成果は得られたと思います。

とにもかくにも、久しぶりに心から喜んだり悲しんだり、胸の高まる思いをした半年でした。全国大会が終わって二ヶ月が経ち、しょげかえっていた学生たちも今では「去年の夏は、苦しかったけど楽しかった。一生忘れない。」などと良い思い出にしています。また、下級生たちは、来年に向け密かに活動を開始しているようです。今後とも本校チームの応援をよろしく願いいたします。

最期に今回のロボコンチームにOBの方々から多大なご支援を賜りましたことにつきまして、この紙面を借りて深く御礼申し上げます。(D科ロボコンチームのホームページもご覧ください。また、ご意見などお寄せいただければ幸いです。<http://moon.denshi.numazu-ct.ac.jp/robot96/>)



'96サッカー部OB会と第29回全国高専サッカー選手権大会

サッカー部監督 坂井徳尚 (M6)



平成8年7月27日(土)PM1:00より、現役の全国大会前の夏の合宿に合わせて、1996年のOB会を開催致しました。

前年の第28回全国大会にて念願の初優勝を成し遂げることができました。それは故柳瀬先生や平林先生、久米先生をはじめとする顧問の先生方や長い間お世話になっているOBの皆様方のご支援・ご協力のおかげであると感謝致しておりました。初めての全国大会の優勝カップを是非共見に来ていただきたいと思い、暑い中でしたが、現役と2試合汗を流してもらいました。

優勝カップとの写真撮影の後ゲームに入ると、昨年の優勝メンバーを中心にした若手OBの攻撃は鋭く、中心選手をケガで欠く現役は久しぶりに押し込まれ、リードを許してしまいましたが、主将福田君の活躍でなんとか3対3の同点で終了することができました。OBの方々にはゲーム途中より暑さの為、よく冷えたビール・ジュース等の飲物と仲よくしながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

現役の学生達は7月13日(土)14日(日)鳥羽商船Gに於て開催された、第34回東海地区高専サッカー大会にて、3勝1分の成績で5連覇、15回目の優勝を達成していました。

OBの方々からは毎度のことながら、多くの全国大会出場へのカンパが寄せられ、現役を励ましていただきました。本当にありがとうございました。

大分県別府市営実相寺サッカー場にて開催された、第29回全国大会は1回戦茨城高専を2対1で勝ち2回戦に進みましたが、地元九州の強豪鹿児島高専に2対0と残念ながら敗れてしまいました。しかし、その鹿児島も準決勝で阿南高専に敗れてしまい、決勝戦は四国同志の戦いとなり、新居浜高専が延長の末3度目の優勝をはたしました。その中でも、優秀選手に中島経之君が選ばれるこ



とことができました。中島君は東海大会の3試合目に腕を骨折しながらも、4試合目も頑張り抜き、さらに1カ月後の全国大会にもなんとか間に合わせてくれました。本当に御苦労様でした。

最後になりましたが、東海大会を勝ち続けている中顧問教官として御世話になった久米先生、そして長い間OB会ほとんど皆出席の2期生の辻さん・斉藤さん・加藤さんありがとうございました。

長倉富幸 (C15) ・中山武彦 (M21) ・山下 仁 (E22)

後藤 永 (M24) ・加藤木修一 (M25) ・梶原働 (M25) ・出口昌義 (C21)

佐野明秀 (M27) ・望月晋也 (E27) ・竹内 啓 (M28) ・朝羽貴士 (D5)

中嶋大輔 (E30) ・長田 忍 (M30) ・数野晴紀 (M30) ・古俣洋行 (M30)

染葉久泰 (M30) ・掘 哲史 (M30) 若手OBの皆様いつまでもサッカーを続けていて下さい。それでは、次回OB会も元気にボールを蹴りに来て下さい。



PS: 1997年3月19日第31期生OBが卒業します。主将、福田哲也君 (C27) ・中島経之君 (M31) ・マネージャー中村友理子さん (C27) と山口剛君 (S1) です。彼ら4人は1年生から5年生まで東海地区高専大会全てに優勝し、4年生のときにはチームの主力として全国制覇まで成し遂げました。その中でも山口剛君は1年生よりレギュラーとして、5年間東海大会20試合、全国大会10試合の全30試合に出場して、沼津高専サッカー部のために活躍してくれました。こんなに素晴らしい選手達と一緒に5年間もサッカーができたことに、今私は感謝いたします。

平成8年度東海地区大会成績表

種目	種類	順位	氏名	全国出場	全国成績
陸上競技	総合	5位			
	男子110mH	3位	D1 森島 毅		
	//1500mOPEN	3位	M1 多々良辰哉		
	//走高跳	3位	D3 上島洋輝		
	女子砲丸投げ	2位	S4 岡本裕子		
バレーボール	男子	3位			
	女子	3位			
バスケットボール		5位			
ソフトテニス	男子団体	4位			
	女子団体	4位			
テニス	男子団体	3位			
	女子団体	3位			
	女子個人ダブルス	2位	C5中野・D5内山		
卓球	男子団体	2位			
	男子個人シングルス	2位	S1 浅井 修		
	男子個人ダブルス	2位	S2山下・S1浅井		
	女子個人シングルス	3位	C5小林敬子		
サッカー		1位		◎	2回戦
ハンドボール		4位			
柔道	団体/全国大会予選	2位			
	団体/勝ち抜き戦	1位			
	個人/軽重量	1位	E5長堀俊一	◎	1回戦
	個人/軽重量	3位	C1澤田直志		
	個人/中量	3位	E4小林良幸		
剣道	男子団体	3位			
	女子団体	4位			
硬式野球		3位			
水泳	総合	3位			
	個人200m平泳	3位	E5渡辺 圭		
	個人200m背泳	1位	S2神谷匡則	◎	予選落ち
	400mメドレー	3位	C4桜井・E5渡辺・E3伊藤・C5大川		
	個人100m平泳	3位	E5渡辺 圭		
	個人100m背泳	2位	S2神谷匡則		
	女子50mバタフライ	2位	E3伊藤満代		
弓道	団体	2位			
空手	個人/型	2位	E5霜村金久		
	団体/型	3位			
	団体/組手	4位			
バドミントン	男子団体	2位			
	女子団体	5位			
	女子個人シングルス	1位	D4吉田さち恵	◎	1回戦
ラグビー		不参加			

●第31回全国高専体育大会

サッカー 8月8日(木) 別府市:市営実相寺サッカー場
1回戦 対 茨城高専 ○2-1
8月9日(金) 別府市:市営実相寺サッカー場
2回戦 対 鹿児島高専 ●0-2
※優秀選手 M5 中島経之

柔道 8月10日(土) 熊本市:総合体育館
個人軽重量 E5 長堀俊一 1回戦

水泳 8月10日(土) 八代市:市民プール
男子200m背泳 S2 神谷匡則 決勝7位

バドミントン 8月11日(日) 大分市:県立総合体育館
女子個人戦単 D4 吉田さち恵 1回戦

●体操競技・豊田高専対抗戦

7月31日(水) 豊田高専第一体育館

女子個人 ゆか 1位 S5 岡本裕子 2位 E2 高木陽子 3位 C2 片井優子
跳馬 1位 S5 岡本裕子 2位 E2 高木陽子 3位 E3 小澤良子

●第3回全国高専将棋大会

8月23日(金)・24日(土) 国立中央青年の家

団体 2位
個人 2位 D5 平澤剣吾 3位 M4 高木秀之 4位 E5 佐藤弘康

●高校野球静岡県予選

1回戦 ○沼津高専 11-7 沼津商業高校
2回戦 ●沼津高専 3-10 新居高校



Copoe

編集後記

コプス第14号は平成8年夏に亡くなられた、故・市川良輔先生の特集号と致しました。いかがでしたでしょうか？今までとは違った視点で同窓会誌に寄稿していただきました。

次回コプス15号は'98年度の予定です。次の会誌に対して良いアイデア、企画等、会員に少しでも興味をおこす“Surprise”がありましたら是非とも寄稿して下さい。

Copse 第14号

平成9年3月30日発行

●発行責任者/木内 倫弘

●発行所/沼津工業高等専門学校同窓会
〒410沼津市大岡3600TEL0559-21-2700

●印刷所/ジャパン コミュニケーション
〒410沼津市柳町3-15TEL0559-23-0123